(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)公開番号
特開2025-82611
(P2025-82611A)
(43)公開日　令和7年5月29日(2025.5.29)

(51)国際特許分類			FI			テーマコード（参考）
A47B	*96/18*	*(2006.01)*	A47B	96/18	D	3B260
A47B	*77/00*	*(2006.01)*	A47B	96/18	H	
			A47B	77/00		

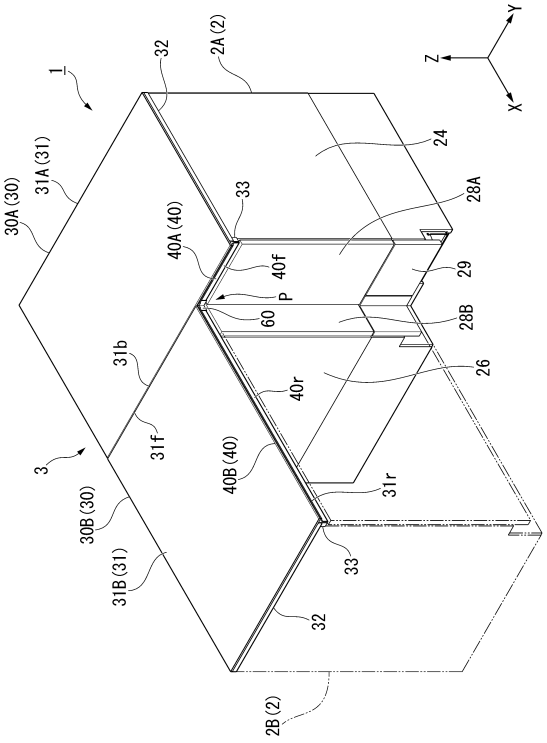
審査請求　未請求　請求項の数　6　ＯＬ　（全13頁）

(21)出願番号　特願2023-196060(P2023-196060)
(22)出願日　令和5年11月17日(2023.11.17)

(71)出願人　504163612
株式会社ＬＩＸＩＬ
東京都品川区西品川一丁目１番１号 大崎ガーデンタワー
(74)代理人　100141139
弁理士　及川 周
(74)代理人　100161506
弁理士　川渕 健一
(74)代理人　100179833
弁理士　松本 将尚
(72)発明者　吉田 洋行
東京都品川区西品川一丁目１番１号 大崎ガーデンタワー 株式会社ＬＩＸＩＬ内
(72)発明者　柳沢 志門
東京都品川区西品川一丁目１番１号 大
最終頁に続く

(54)【発明の名称】　天板構造及びキャビネット

(57)【要約】
【課題】天板を容易にＬ型にすることができる天板構造及びキャビネットを提供する。
【解決手段】天板構造３は、水平方向に沿う第１方向Ｙに延びる第１辺３１ｆを有し、平面視で略矩形に形成された第１天板本体３１Ａと、水平方向に沿うとともに第１方向Ｙと直交する第２方向Ｘに延びる第２辺３１ｒを有し、第２辺３１ｒが第１辺３１ｆに直交するように配置され、平面視で略矩形に形成された第２天板本体３１Ｂと、第１天板本体３１Ａの下方に配置され、第１辺３１ｆの下側に配置された第１框材４０Ａと、第２天板本体３１Ｂの下方に配置され、第２辺３１ｒの下側に配置された第２框材４０Ｂと、を備える。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
水平方向に沿う第１方向に延びる第１辺を有し、平面視で略矩形に形成された第１天板本体と、
水平方向に沿うとともに前記第１方向と直交する第２方向に延びる第２辺を有し、前記第２辺が前記第１辺に直交するように配置され、平面視で略矩形に形成された第２天板本体と、
前記第１天板本体の下方に配置され、前記第１辺の下側に配置された第１框材と、
前記第２天板本体の下方に配置され、前記第２辺の下側に配置された第２框材と、を備える天板構造。
【請求項２】
前記第１框材は、前記第１辺の前記第１方向の略全長にわたって配置されている請求項１に記載の天板構造。
【請求項３】
キャビネット本体と、
前記キャビネット本体の上側に設置される請求項１または２に記載の天板構造と、を備えるキャビネット。
【請求項４】
前記キャビネット本体は、
鉛直面に沿って配置され、前記天板構造を支持する支持板を備え、
前記支持板には、上端部から下方に凹む凹部が形成され、
前記凹部の内部には、前記第１框材が配置可能である請求項３に記載のキャビネット。
【請求項５】
前記支持板は、
前記キャビネット本体の前記第１方向の一方側に配置され、前記第２方向に沿う第１背板と、
前記キャビネット本体の前記第１方向の他方側に配置され、前記第２方向に沿う第１前板と、を備え、
前記第１背板及び前記第１前板に、それぞれ前記凹部が形成されている請求項４に記載のキャビネット。
【請求項６】
前記支持板は、
前記キャビネット本体の前記第２方向の一方側に配置され、前記第１方向に沿う第２背板と、
前記キャビネット本体の前記第２方向の他方側に配置され、前記第１方向に沿うとともに、前記第１前板とともに入隅部を形成する第２前板と、を備え、
前記第２背板及び前記第２前板に、それぞれ前記凹部が形成されている請求項５に記載のキャビネット。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本開示は、天板構造及びキャビネットに関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来から、キッチン等で、Ｌ字状に形成された天板が設置されることがある。下記の特許文献１では、端部が略４５°に切断された２枚の天板を、端部どうし突き合わせて並べてＬ字状にした構成が開示されている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】

【特許文献１】特開昭５３－１０８５７５号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
端部を略４５°に切断された天板は、製造が困難であるとともに、先端が尖っているため梱包を工夫しなければならない等の問題点がある。
【０００５】
本開示は、上記事情に鑑みてなされたものであり、天板を容易にＬ型にすることができる天板構造及びキャビネットを提供する。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
本開示の一態様に係る天板構造は、水平方向に沿う第１方向に延びる第１辺を有し、平面視で略矩形に形成された第１天板本体と、水平方向に沿うとともに前記第１方向と直交する第２方向に延びる第２辺を有し、前記第２辺が前記第１辺に直交するように配置され、平面視で略矩形に形成された第２天板本体と、前記第１天板本体の下方に配置され、前記第１辺の下側に配置された第１框材と、前記第２天板本体の下方に配置され、前記第２辺の下側に配置された第２框材と、を備える。
【図面の簡単な説明】
【０００７】
【図１】第１実施形態のキャビネットを示す斜視図である。
【図２】第１実施形態のキャビネット本体を示す斜視図である。
【図３】第１実施形態のキャビネットから天板構造を外した平面図である。
【図４】図３のＩＶ－ＩＶ線断面図である。
【図５】第２実施形態のキャビネットを示す平面図である。
【図６】第２実施形態のキャビネットから天板構造を外した平面図である。
【図７】第３実施形態のキャビネットを示す平面図である。
【図８】第３実施形態のキャビネットから天板構造を外した平面図である。
【発明を実施するための形態】
【０００８】
（第１実施形態）
以下、本開示の天板構造及びキャビネットの実施の形態を、図１から図４を参照して説明する。以下の実施形態は、本開示の一態様を示すものであり、この開示を限定するものではなく、本開示の技術的思想の範囲内で任意に変更可能である。また、以下の図面においては、各構成をわかりやすくするために、実際の構造と各構造における縮尺等を異ならせている。
【０００９】
以下の実施形態においては、本開示のキャビネットがキッチンカウンター１である例について説明する。以下、キッチンカウンター１を単に、カウンター１と記載する。本実施形態では、Ｌ型のキッチンカウンターを例に説明する。図面には適宜、Ｘ軸、Ｙ軸及びＺ軸を示している。Ｚ軸に沿った方向は、上下方向である。Ｘ軸に沿った方向は、上下方向と直交する水平方向のうちの一方向である。Ｙ軸に沿った方向は、上下方向と直交する水平方向のうちＸ軸と直交する方向である。以下の説明においては、Ｘ軸に沿った方向を「前後方向Ｘ」と呼び、Ｙ軸に沿った方向を「左右方向Ｙ」と呼び、Ｚ軸に沿った方向を「上下方向Ｚ」と呼ぶ。上下方向ＺのうちＺ軸の矢印が向く側が上側であり、上下方向ＺのうちＺ軸の矢印が向く側と逆側が下側である。前後方向ＸのうちＸ軸の矢印が向く側が前側であり、前後方向ＸのうちＸ軸の矢印が向く側と逆側が後側である。左右方向ＹのうちＹ軸の矢印が向く側が右側であり、左右方向ＹのうちＹ軸の矢印が向く側と逆側が左側である。左右方向Ｙは、上下方向Ｚと交差する交差方向に相当する。左右方向Ｙは、特許請求の範囲の第１方向に対応する。前後方向Ｘは、特許請求の範囲の第２方向に対応する。
【００１０】

図１に示すように、カウンター１は、平面視略Ｌ字形状に形成された部材である。図示例のカウンター１は、Ｌ型カウンターの一部である。カウンター１の後述する側板２４の右側には、不図示のカウンターが接続可能である。カウンター１の後述するキャビネット本体２Ｂの前側には、不図示のカウンターが接続可能である。カウンター１は、ペニンシュラ型のキッチンカウンターであるが、壁付型のキッチンカウンターであってもよい。カウンター１は、複数のキャビネット本体２と、天板構造３と、を備える。

【００１１】

複数のキャビネット本体２は、キャビネット本体２Ａ及びキャビネット本体２Ｂの２つが設けられている。キャビネット本体２Ａ，２Ｂは、床上に設置される平面視略Ｌ字形状の構造体である。キャビネット本体２Ａ，２Ｂは、内部に収納部を備える。収納部は、鍋、調理器具、食器等の台所用品等の物品を収納可能である。キャビネット本体２Ａの収納部は、例えば、台所設備が収納される部分を除く領域に棚や引出し２９が設けられる。キャビネット本体２Ａの前側には、扉２８Ａ，２８Ｂが設けられている。キャビネット本体２Ａは、特許請求の範囲のキャビネット本体に対応する。

【００１２】

天板構造３は、キャビネット本体２の上側に設置されている。分割された２枚の天板本体３１が、接合されて設置されている。天板構造３は、複数の天板部材３０と、框カバー材６０と、を備える。

【００１３】

複数の天板部材３０は、天板部材３０Ａ及び天板部材３０Ｂの２つが設けられている。天板部材３０Ａと天板部材３０Ｂとは、直交配置されている。天板部材３０Ａは、長手方向を左右方向Ｙに向けて配置されている。天板部材３０Ｂは、長手方向を前後方向Ｘに向けて配置されている。

【００１４】

天板部材３０は、天板本体３１と、天板支持板３２と、框支持材３３と、框材４０と、を備える。以下では、主に天板部材３０Ａの構成を、図面を使用して説明する。天板部材３０Ｂの構成は、天板部材３０Ｂの框材４０の表面が右側を向くように、天板部材３０Ａを９０°回転させた構成であり、同一の符号を付して説明を省略することがある。

【００１５】

天板本体３１は、平板状の部材である。天板本体３１の板面は、上下方向Ｚを向いている。天板本体３１は、上下方向Ｚから見て、略矩形状の部材である。天板本体３１は、セラミック製である。天板本体３１の上縁部には、図４に示す傾斜面３１ａが形成されている。傾斜面３１ａによって、天板本体３１が外観上スリムに見える。天板本体３１を形成する材料は、適宜設定可能である。

【００１６】

図１に示すように、天板部材３０Ａの天板本体３１を、天板本体３１Ａとする。天板部材３０Ｂの天板本体３１を、天板本体３１Ｂとする。天板本体３１Ａは、左右方向Ｙに延びている。平面視で天板本体３１Ａは、左右方向Ｙに長い略長方形の部材である。天板本体３１Ａの前端部である前辺３１ｆは、左右方向Ｙに延びている。天板本体３１Ａは、特許請求の範囲の第１天板本体に対応する。天板本体３１Ａの前辺３１ｆは、特許請求の範囲の第１辺に対応する。

【００１７】

天板本体３１Ｂは、前後方向Ｘに延びている。平面視で天板本体３１Ｂは、前後方向Ｘに長い略長方形の部材である。天板本体３１Ｂの右端部である右辺３１ｒは、前後方向Ｘに延びている。天板本体３１Ｂは、特許請求の範囲の第２天板本体に対応する。天板本体３１Ｂの右辺３１ｒは、特許請求の範囲の第２辺に対応する。

【００１８】

天板本体３１Ａの前後方向Ｘの長さである奥行寸法と、天板本体３１Ｆの左右方向Ｙの長さである奥行寸法とは、同じである。

【００１９】

図４に示すように、天板本体３１Ａの前辺３１ｆに、天板本体３１Ｂの後端部である後辺３１ｂが突きつけられている。天板本体３１Ａの前辺３１ｆと天板本体３１Ｂの後辺３１ｂとの間には、わずかな隙間が形成されていてもよい。わずかな隙間とは、数ｍｍ程度である。当該隙間には、不図示のシリコン等の止水材が設けられている。シリコンの色は、天板本体３１の色と同じであることが外観上好ましいが、天板本体３１と異なる色であってもよい。

【００２０】

図１に示すように、天板本体３１Ｂの右辺３１ｒは、天板本体３１Ａの前辺３１ｆに直交している。直交とは、右辺３１ｒと前辺３１ｆとが略直角に交わっている場合に限られず、図示例のように右辺３１ｒの延在方向と前辺３１ｆの延在方向とが略直角に交わっていて、右辺３１ｒの長さ方向の端部が前辺３１ｆ上に配置されている場合も含まれる。天板本体３１Ｂの右辺３１ｒの後端部は、天板本体３１Ａの前辺３１ｆに達している。図示例は、右側に配置される天板部材３０Ａの天板本体３１が左側に配置される天板部材３０Ｂの天板本体３１の後側にまで配置される右勝ちの納まりである。

【００２１】

天板支持板３２は、天板本体３１の下側に配置されている。図４に示すように、天板支持板３２は、天板本体３１の下面３１ｄに当たって、天板本体３１に接合されている。天板支持板３２は、平板状の部材である。天板支持板３２の板面は、上下方向Ｚを向いている。天板支持板３２は、天板本体３１を支持している。天板本体３１を支持する部材は、平板状に形成された天板支持板３２に限らず、格子状に形成された部材であってもよく、形状は適宜設定可能である。

【００２２】

図１に示すように、框支持材３３は、天板支持板３２の下側において、平面視で框材４０の内側に配置されている。天板部材３０Ａでは、框支持材３３は、天板本体３１Ａの前辺３１ｆよりも後方且つ天板支持板３２の下側に配置されている。天板部材３０Ｂでは、框支持材３３は、天板本体３１Ａの右辺３１ｒよりも左方且つ天板支持板３２の下側に配置されている。

【００２３】

框支持材３３は、天板支持板３２の縁部に沿って延びる長尺状の部材である。框支持材３３は、天板支持板３２に接合されている。框支持材３３は、長手方向に直交する断面が略矩形状の部材である。框支持材３３は、木製である。框支持材３３の形状及び材料は、適宜設定可能である。

【００２４】

框材４０は、天板本体３１の下側において、平面視で天板支持板３２及び框支持材３３の外側に配置されている。天板部材３０Ａでは、框材４０は、天板本体３１Ａの前辺３１ｆの直下に配置されている。天板部材３０Ｂでは、框材４０は、天板本体３１Ａの右辺３１ｒの直下に配置されている。框材４０は、長尺状の部材である。框材４０は、天板本体３１の下方に配置されている。框材４０は、アルミ合金等の金属製である。框材４０を形成する材料は、適宜設定可能である。框材４０は、天板支持板３２の前面及び框支持材３３の前面を覆って隠すカバー材や、輸送時や使用時に天板本体３１に作用する曲げや衝撃から天板本体３１を保護する補強材として機能する。

【００２５】

天板部材３０Ａの框材４０を、框材４０Ａとする。天板部材３０Ｂの框材４０を、框材４０Ｂとする。図３に示すように、框材４０Ａは、天板本体３１Ａの前辺３１ｆに左右方向Ｙの略全長にわたって配置されている。框材４０Ｂは、天板本体３１Ｂの右辺３１ｒに前後方向Ｘの略全長にわたって配置されている。框材４０Ａは、天板本体３１Ａの前辺３１ｆにおける少なくとも前方から見える部分にのみ配置されていればよい。框材４０Ａは、少なくとも天板本体３１Ａの右端から框材４０Ｂとの交差する部分にまで配置されていればよい。框材４０Ｂは、天板本体３１Ａの領域にまでは配置されていない。框材４０Ｂの後端部４０ｂは、框材４０Ａの前側に位置している。框材４０Ａは、特許請求の範囲の

第１框材に対応する。框材４０Ｂは、特許請求の範囲の第２框材に対応する。

【００２６】

図４に示すように、框材４０Ａは、横片４１と、縦片４２と、傾斜片４３と、を備える。框材４０は、長手方向に直交する断面が略Ｌ字形状の部材である。

【００２７】

横片４１は、略水平方向に延びる部分を有する。横片４１の上面４１ｕは、天板本体３１の下面３１ｄに当たっている。横片４１の上面４１ｕは、天板本体３１の下面３１ｄに接着剤等によって接合されている。

【００２８】

縦片４２は、略鉛直方向に延びる部分を有する。縦片４２の後面４２ｂは、框支持材３３の前面３３ｆに当たっている。縦片４２の後面４２ｂは、框支持材３３の前面３３ｆに接着剤等によって接合されている。縦片４２は、框支持材３３によって後方から支持されている。

【００２９】

傾斜片４３は、横片４１と縦片４２とを接続する。傾斜片４３の前面４３ｆは、下部から上部に向かうにしたがって次第に前方に向かうように、鉛直面に対して傾斜している。框材４０Ｂは、框材４０Ａの前面４０ｆを右側に向けて配置された構成であり、説明を省略する。

【００３０】

図１に示すように、框カバー材６０は、框材４０Ａと框材４０Ｂとで形成される入隅部Ｐに配置されている。框カバー材６０は、框材４０Ａの前面４０ｆ及び框材４０Ｂの右面４０ｒを覆っている。

【００３１】

天板本体３１と框材４０との外観上の仕上げは、異なっていてもよい。天板本体３１の色と框材４０の色とは、異なっていてもよい。框カバー材６０の色は、框材４０の色と同一か、框材４０の色に近い色であることが好ましい。

【００３２】

キャビネット本体２Ａの構成について詳細に説明する。図２に示すように、キャビネット本体２Ａは、背板２１と、背板２２と、前板２３と、側板２４と、前板２５と、側板２６と、を備える。

【００３３】

背板２１は、キャビネット本体２Ａの後側を仕切る部材である。背板２１は、床面に設置されている。背板２１は、平板状の部材である。背板２１は、鉛直面に沿って配置されている。背板２１の板面は、前後方向Ｘを向いている。図３に示すように、背板２１は、天板本体３１Ａの後辺３１ｂよりも前方の位置に配置されている。背板２１の上端部２１ｕは、図４に示す天板本体３１Ａの下面３１ｄに当たっている。背板２１は、天板本体３１Ａを支持している。背板２１は、特許請求の範囲の支持板に対応する。背板２１は、特許請求の範囲の第２背板に対応する。

【００３４】

図２に示すように、背板２２は、キャビネット本体２Ａの左側を仕切る部材である。背板２２は、床面に設置されている。背板２２は、平板状の部材である。背板２２は、鉛直面に沿って配置されている。背板２２の板面は、左右方向Ｙを向いている。背板２２の後端部は、背板２１の左端部に接合されている。図３に示すように、背板２２は、天板本体３１Ａの左端部３１ｃよりも右方の位置に配置されている。図４に示すように、背板２２の上端部２２ｕは、天板本体３１Ａの下面３１ｄに当たっている。背板２１は、天板本体３１Ａを支持している。背板２２は、特許請求の範囲の支持板に対応する。背板２２は、特許請求の範囲の第１背板に対応する。

【００３５】

図２に示すように、前板２３は、背板２１と側板２６との結ぶ前後方向Ｘの中央よりも前側に配置されている。前板２３は、背板２１の前方に対向して配置されている。前板２

３の左右方向Ｙの長さは、背板２１の左右方向Ｙの長さよりも短い。前板２３は、キャビネット本体２Ａの上部に配置されている。前板２３は、平板状の部材である。前板２３は、鉛直面に沿って配置されている。前板２３の板面は、前後方向Ｘを向いている。前板２３は、図４に示す天板本体３１Ａの下側に配置される框支持材３３に固定されている。図３に示すように、前板２３は、天板本体３１Ａの前辺３１ｆよりも後側に配置されている。前板２３の前側には、扉２８Ａが配置されている。前板２３の上端部２３ｕは、図４に示す天板本体３１Ａの下面３１ｄに当たっている。前板２３は、天板本体３１Ａを支持している。前板２３は、特許請求の範囲の支持板に対応する。前板２３は、特許請求の範囲の第２前板に対応する。

【００３６】

図２に示すように、側板２４は、キャビネット本体２Ａの右側を仕切る部材である。側板２４は、床面に設置されている。側板２４は、平板状の部材である。側板２４は、鉛直面に沿って配置されている。側板２４の板面は、左右方向Ｙを向いている。側板２４の後部は、背板２１の右端部に接合されている。側板２４の後部と背板２１の右端部とは、連結金具５２を介して連結されている。側板２４の後端部は、背板２１よりも後方に延びている。側板２４の前端部は、前板２３の右端部に接合されている。側板２４の前端部と前板２３の右端部とは、連結金具５３を介して連結されている。図３に示すように、側板２４は、天板本体３１Ａの右辺３１ｄの略直下に配置されている。側板２４の上端部２４ｕは、図４に示す天板本体３１Ａの下面３１ｄに当たっている。側板２４は、天板本体３１Ａを支持している。

【００３７】

図２に示すように、前板２５は、キャビネット本体２Ａの左右方向Ｙの中央よりも右側に配置されている。前板２５は、背板２２の右方に対向して配置されている。前板２５の前後方向Ｘの長さは、背板２２の前後方向Ｘの長さよりも短い。前板２５は、キャビネット本体２Ａの上部に配置されている。前板２５は、平板状の部材である。前板２５は、鉛直面に沿って配置されている。前板２５の板面は、左右方向Ｙを向いている。前板２５は、天板本体３１Ｂの下側に配置される框支持材３３に固定されている。図３に示すように、前板２５は、天板本体３１Ｂの右辺３１ｒよりも左側に配置されている。前板２５の右側には、扉２８Ｂが配置されている。前板２５の上端部２５ｕは、図４に示す天板本体３１Ｂの下面３１ｄに当たっている。前板２５は、天板本体３１Ｂを支持している。前板２５は、特許請求の範囲の支持板に対応する。前板２５は、特許請求の範囲の第１前板に対応する。

【００３８】

図３に示すように、前板２３の左端部２３ｃと前板２５の後端部２５ｂとは、接合されている。前板２３の左端部２３ｃと前板２５の後端部２５ｂとによって、略直角の入隅部Ｐが形成されている。

【００３９】

図２に示すように、側板２６は、キャビネット本体２Ａの前側を仕切る部材である。側板２６は、床面に設置されている。側板２６は、平板状の部材である。側板２６は、鉛直面に沿って配置されている。側板２６の板面は、前後方向Ｘを向いている。図３に示すように、側板２６の左側の部分は、背板２２の前端部に接合されている。側板２６の左端部は、背板２２よりも左方に延びている。側板２６の右端部は、前板２５の前端部に接合されている。側板２６の右端部と前板２５の前端部とは、連結金具５４を介して連結されている。側板２６は、天板本体３１Ｂの後端部３１ｂよりも前側に配置されている。側板２６の上端部２６ｕは、図４に示す天板本体３１Ｂの下面３１ｄに当たっている。側板２６は、天板本体３１Ｂを支持している。

【００４０】

背板２１の上部と前板２３の上部とは、補強桟５１で連結されている。補強桟５１は、平板状の部材である。補強桟５１の板面は、左右方向Ｙを向いている。

【００４１】

図２に示すように、背板２１の上端部２１ｕには、下方に凹む凹部２１ａが形成されている。凹部２１ａは、前後方向Ｘから見て略矩形状である。背板２２の上端部２２ｕには、下方に凹む凹部２２ａが形成されている。凹部２２ａは、左右方向Ｙから見て略矩形状である。前板２３の上端部２３ｕには、下方に凹む凹部２３ａが形成されている。凹部２３ａは、前後方向から見て略矩形である。前板２５の上端部２５ｕには、下方に凹む凹部２５ａが形成されている。凹部２５ａは、左右方向Ｙから見て略矩形である。

【００４２】

図３に示すように、背板２２の凹部２２ａ及び前板２５の凹部２５ａには、框材４０Ａ及び天板部材３０Ａの框支持材３３が挿通され、配置されている。図４に示すように、凹部２５ａには、框材４０Ａ及び框支持材３３が配置されていない部分に、緩衝材５２が配置されている。框支持材３３の上端部３３ｕは、背板２２の上端部２２ｕと略同一高さにある。框材４０の上面４１ｕは、背板２２の上端部２２ｕよりも上方に突出している。

【００４３】

図３に示すように、背板２１の凹部２１ａ及び前板２３の凹部２３ａには、それぞれ框材４０Ａ及び框材４０Ｂのいずれも配置されていない。背板２１の凹部２１ａ及び前板２３の凹部２３ａは、下記の実施形態で示す天板の左勝ちの納まりの際に使用される。キャビネット本体２Ａは、天板の右勝ち及び左勝ちの兼用となっている。

【００４４】

このように構成されたキッチンカウンター１では、天板本体３１Ａの前辺３１ｆと天板本体３１Ｂの右辺３１ｒとが直交するように配置されている。天板本体３１Ａの前辺３１ｆの下側には、框材４０Ａが配置されている。天板本体３１Ｂの右辺３１ｒの下側には、框材４０Ｂが配置されている。略矩形に形成された天板本体３１Ａと略矩形に形成された天板本体３１Ｂとを組み合わせることによって、天板を容易にＬ型にすることができる。

【００４５】

框材４０Ａは、天板本体３１Ａの前辺３１ｆに左右方向Ｙの略全長にわたって配置されている。輸送時や使用時に天板本体３１に曲げや衝撃が生じた際には、天板本体３１Ａの長さ方向の略全長にわたって補強することができる。

【００４６】

背板２２の凹部２２ａ及び前板２５の凹部２５ａには、框材４０Ａ及び天板部材３０Ａの框支持材３３が挿通され、配置されている。框材４０Ａ及び框支持材３３と背板２２及び前板２５との干渉を抑制することができる。

【００４７】

框材４０Ａと框材４０Ｂとで形成される入隅部Ｐには、框カバー材６０が配置されている。框材４０Ａと框材４０Ｂとの直交部分が露出することがなく、入隅部Ｐの納まりを良好とすることができる。

【００４８】

背板２１には、凹部２１ａが形成されている。前板２３には、凹部２３ａが形成されている。凹部２１ａ及び凹部２３ａには、それぞれ框材４０Ａ及び框材４０Ｂのいずれも配置されていないが、天板の左勝ちの納まりの際に框材が配置される。キャビネット本体２Ａは、天板の右勝ち及び左勝ちの兼用として使用することができる。

【００４９】

天板本体３１Ａの前後方向Ｘの長さである奥行寸法と、天板本体３１Ｂの左右方向Ｙの長さである奥行寸法とは、同じである。天板本体３１Ａ及び天板本体３１Ｂの両方で、例えばＩ型の分割天板本体のような既存の部材を使用することができる。

【００５０】

（第２実施形態）

第２実施形態に係るカウンターについて、主に図５及び図６を用いて説明する。下記に示す実施形態の説明において、前述した部材と同一の部材には同一の符号を付して、その説明を省略する。

【００５１】

図５及び図６に示すように、カウンター１Ｘは、キャビネット本体２Ａと、不図示のキャビネット本体と、天板構造３Ｘと、を備える。天板構造３Ｘは、天板部材３０Ｃと、天板部材３０Ｄと、不図示の框カバー材と、を備える。左側に配置される天板部材３０Ｄの天板本体３１Ｂが右側に配置される天板部材３０Ｃの天板本体３１Ｃの左側にまで配置される左勝ちの納まりである。

【００５２】

図６では、キャビネット本体２Ａ以外のキャビネット本体の図示を省略している。図６に示すように、天板部材３０Ｃの下側の框材４０Ｃは、天板本体３１Ｃの前側に沿って配置されている。天板部材３０Ｄの下側の框材４０Ｄは、天板本体３１Ｄの右側に沿って配置されている。

【００５３】

框材４０Ｃは、框材４０Ｄの右側まで配置されている。框材４０Ｄは、背板２１の凹部２１ａ及び前板２３の凹部２３ａに挿通されて、配置されている。

【００５４】

このように構成されたキッチンカウンター１Ｘでは、天板本体３１Ｃの前辺３１ｆと天板本体３１Ｄの右辺３１ｒとが直交するように配置されている。天板本体３１Ｃの前辺３１ｆの下側には、框材４０Ｃが配置されている。天板本体３１Ｄの右辺３１ｒの下側には、框材４０Ｄが配置されている。略矩形に形成された天板本体３１Ｃと略矩形に形成された天板本体３１Ｄとを組み合わせることによって、天板を容易にＬ型にすることができる。

【００５５】

（第３実施形態）

第３実施形態に係るカウンターについて、主に図７及び図８を用いて説明する。

【００５６】

図７及び図８に示すように、カウンター１Ｙは、図８に示すキャビネット本体２Ａと、不図示のキャビネット本体と、天板構造３Ｙと、を備える。天板構造３Ｙは、天板部材３０Ｅと、天板部材３０Ｆと、框カバー材６０と、を備える。右側に配置される天板部材３０Ｅの天板本体３１Ｅが左側に配置される天板部材３０Ｆの天板本体３１Ｆの後側にまで配置される右勝ちの納まりである。

【００５７】

図８では、キャビネット本体２Ａ以外のキャビネット本体の図示を省略している。図８に示すように、天板部材３０Ｅの下側の框材４０Ａは、天板本体３１Ｅの前側に沿って配置されている。天板部材３０Ｆの下側の框材４０Ｂは、天板本体３１Ｆの右側に沿って配置されている。

【００５８】

框材４０Ｂは、框材４０Ａの前側まで配置されている。框材４０Ａは、背板２２の凹部２２ａ及び前板２５の凹部２５ａに挿通されて、配置されている。天板本体３１Ｅの前後方向Ｘの長さである奥行寸法を寸法Ｄ１とする。天板本体３１Ｆの左右方向Ｙの長さである奥行寸法を寸法Ｄ２とする。寸法Ｄ１と寸法Ｄ２とは、異なる。寸法Ｄ１は、寸法Ｄ２よりも長い。

【００５９】

このように構成されたキッチンカウンター１Ｙでは、天板本体３１Ｅの前辺３１ｆと天板本体３１Ｆの右辺３１ｒとが直交するように配置されている。天板本体３１Ｅの前辺３１ｆの下側には、框材４０Ａが配置されている。天板本体３１Ｆの右辺３１ｒの下側には、框材４０Ｂが配置されている。略矩形に形成された天板本体３１Ｅと略矩形に形成された天板本体３１Ｆとを組み合わせることによって、天板を容易にＬ型にすることができる。

【００６０】

天板本体３１Ｅの寸法Ｄ１と天板本体３１Ｆの寸法Ｄ２とは、異なる。奥行寸法の異なる天板本体３１Ｅ，３１Ｆを組み合わせて、Ｌ型にすることでキッチンカウンターのバリ

エーションを充実させることができる。

【００６１】

以上、添付図面を参照しながら本開示に係る好適な実施形態について説明したが、本開示は係る例に限定されないことは言うまでもない。上述した例において示した各構成部材の諸形状や組み合わせ等は一例であって、本開示の主旨から逸脱しない範囲において設計要求等に基づき種々変更可能である。

【００６２】

上記に示す実施形態では、キャビネットの一例としてキッチンユニットを例に挙げて説明したが、これに限られない。洗面所のキャビネットや収納付きの机等であってもよい。

【００６３】

第１天板本体は第１辺側の端面が下方に垂れ下がるように形成されていて、第１框材の上端部は第１辺側の端面を正面視し第１辺側の端面の奥側にセットバックして配置されていてもよい。同様に、第２天板本体は第２辺側の端面が下方に垂れ下がるように形成されていて、第２框材の上端部は第２辺側の端面を正面視して第２辺側の端面の奥側にセットバックして配置されていてもよい。

【００６４】

第１天板本体は第１辺側の端面が下方に垂れ下がるように形成されていて、第１框材が設けられておらず、第１天板本体の垂れ下がっている部分が前板の凹部及び背板の凹部に挿通され、配置されていてもよい。第１天板本体の垂れ下がっている部分は、天板支持板及び框支持材の前側を覆うように配置され、天板支持板及び框支持材の露出を抑制することができる。第１框材が不要になり、部品点数を削減することができる。

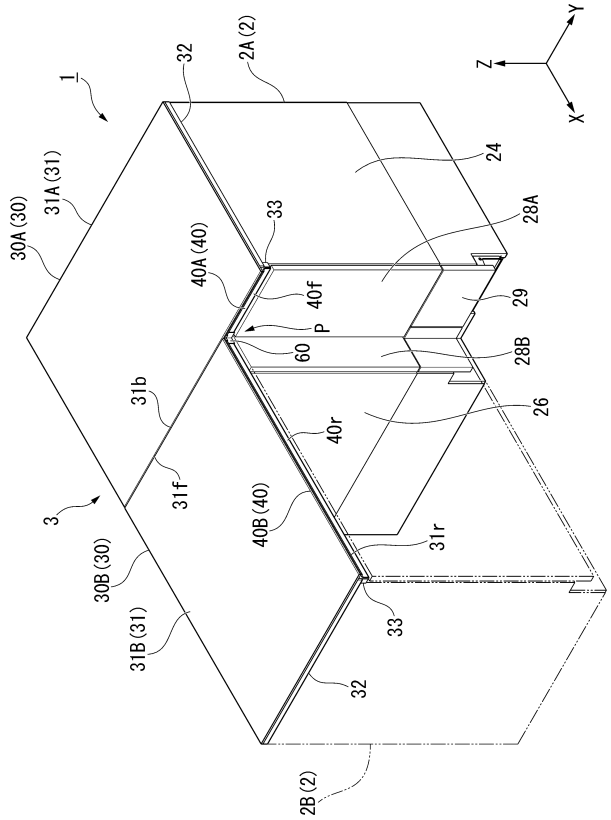
【符号の説明】

【００６５】

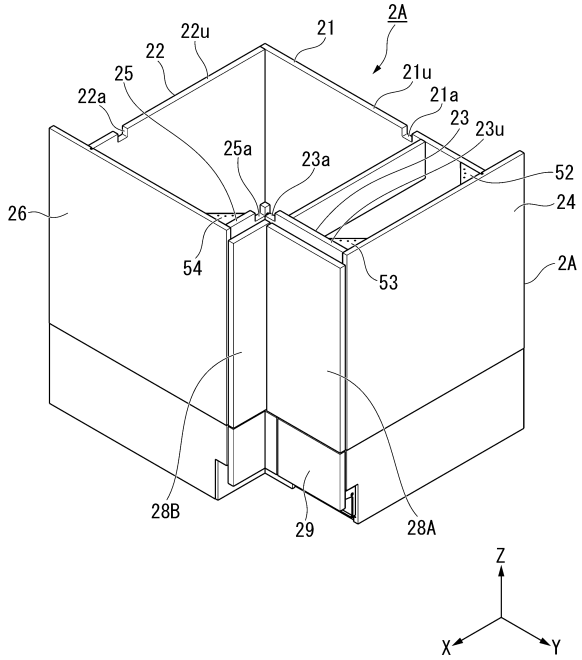
２，２Ａ，２Ｂ　キャビネット本体、３，３Ｘ，３Ｙ　天板構造、２１　背板（第２背板、支持板）、２１ａ，２２ａ，２３ａ，２５ａ　凹部、２２　背板（第１背板、支持板）２３　前板（第２前板、支持板）、２５　前板（第１前板、支持板）、３１　天板本体、３１Ａ　天板本体（第１天板本体）、３１Ｂ　天板本体（第２天板本体）３１Ｃ，３１Ｄ，３１Ｅ，３１Ｆ　天板本体、３１ｆ　第１辺、３１ｒ　第２辺、４０　框材、４０Ａ　框材（第１框材）、４０Ｂ　框材（第２框材）、４０Ｃ，４０Ｄ　框材、Ｐ　入隅部

【図面】

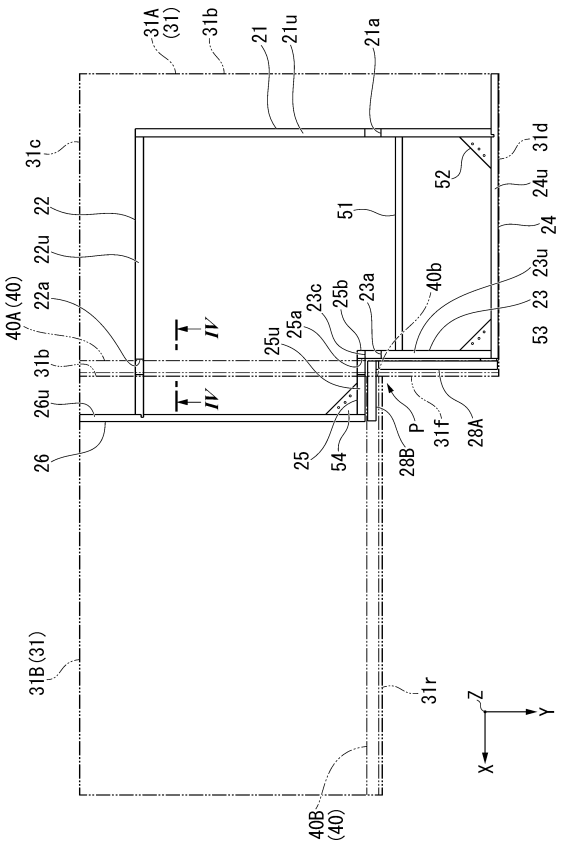
【図１】


1
32
2A (2)
Z
Y
X
24
31A (31)
30A (30)
33
28A
40A (40)
40f
29
P
60
28B
31b
26
40r
31f
3
40B (40)
31r
30B (30)
33
31B (31)
32
2B (2)

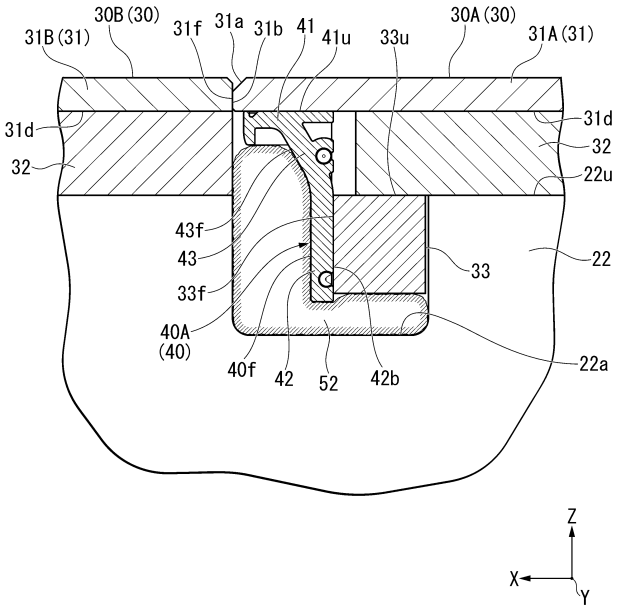
【図２】


2A
22u
21
22
21u
25
21a
22a
23
23u
25a
23a
52
26
24
54
53
2A
28B
29
28A
Z
X
Y

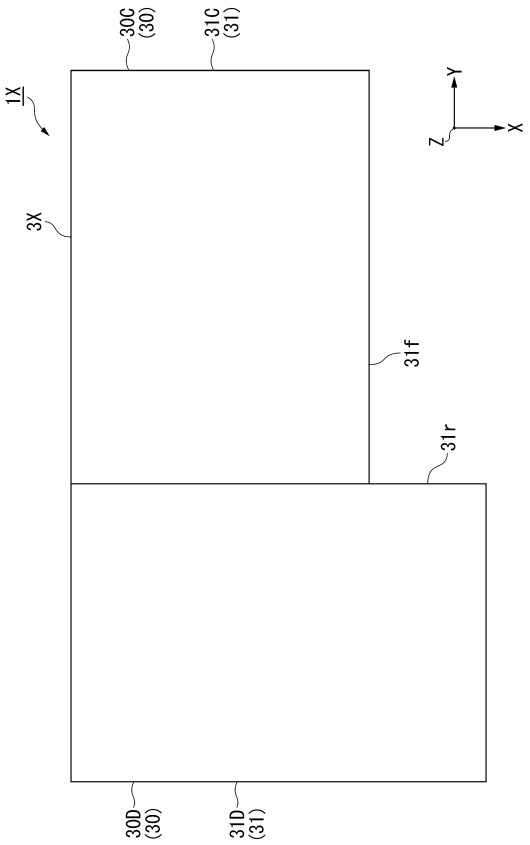
【図３】


31A (31)
31b
21
21u
21a
31c
31d
52
24u
22
51
24
22u
23u
40b
40A (40)
22a
23c
25b
23a
23
IV
25u
25a
53
31b
IV
26u
P
31f
28A
26
25
54
28B
31B (31)
31r
Z
Y
X
40B (40)

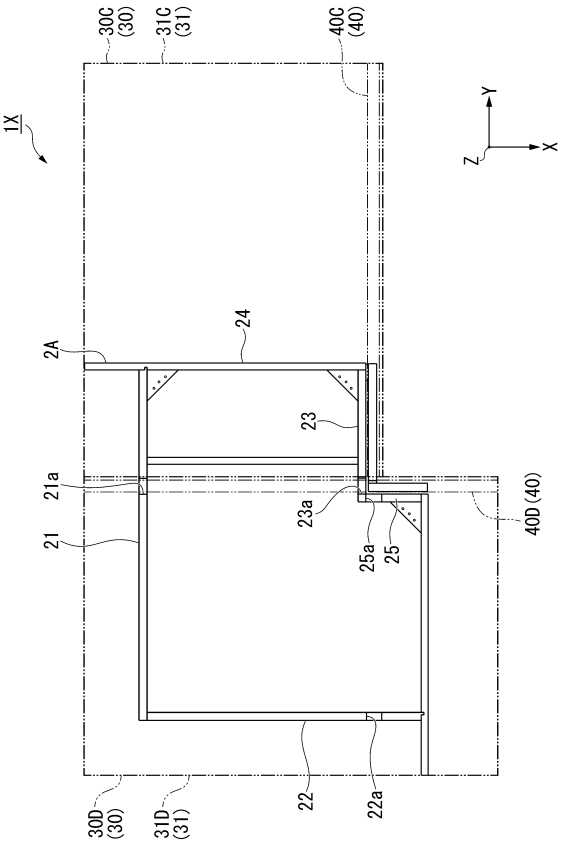
【図４】


30B (30)
31B (31)
31f
31a
31b
41
41u
33u
30A (30)
31A (31)
31d
31d
32
32
22u
43f
43
33
22
33f
40A (40)
40f
42
52
42b
22a
Z
X
Y

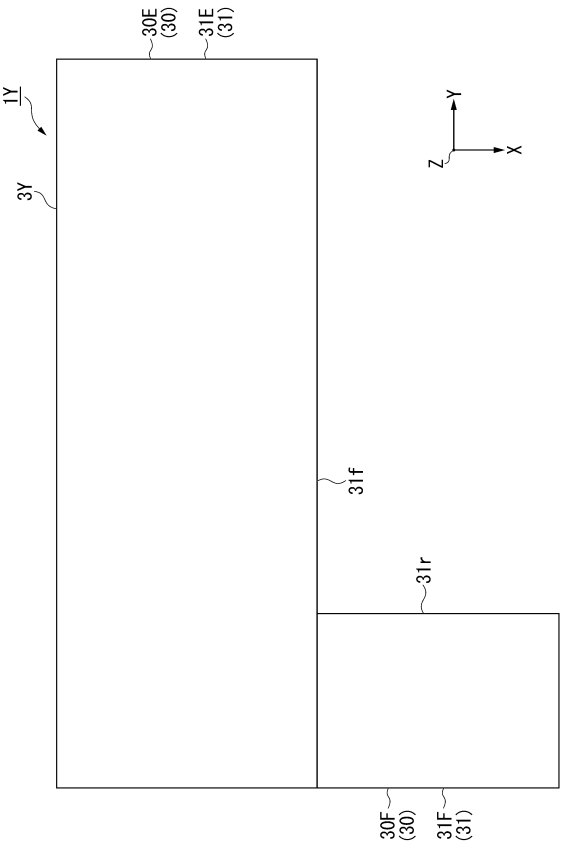
【図５】


30C (30)
31C (31)
1X
3X
Y
Z
X
31f
31r
30D (30)
31D (31)

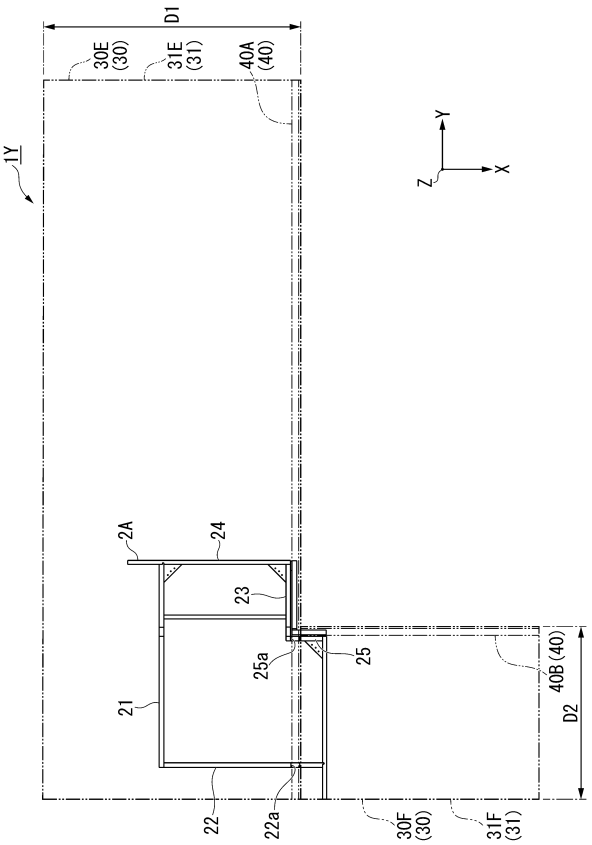
【図６】


30C (30)
31C (31)
40C (40)
1X
Y
Z
X
2A
24
23
21a
23a
25a
25
40D (40)
21
22
22a
30D (30)
31D (31)

【図７】


30E (30)
31E (31)
1Y
3Y
Y
Z
X
31f
31r
30F (30)
31F (31)

【図８】


D1
30E (30)
31E (31)
40A (40)
1Y
Y
Z
X
2A
24
23
25a
25
40B (40)
D2
21
22
22a
30F (30)
31F (31)

フロントページの続き

崎ガーデンタワー 株式会社ＬＩＸＩＬ内

Ｆターム（参考） 3B260 CA00 CA01